

事案名	特殊地下壕の事案（神奈川県14-10）
分類	生産・保有 その他
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「会議・打ち合わせ等記録表（寒川町内における特殊地下壕対策ヒアリング・視察）」平成15年7月24日〔1〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』フォローアップ調査について（回答）」平成15年11月5日〔2〕</li> <li>・「昭和49年に行われた特殊地下壕対策事業資料」〔3〕</li> </ul>
資料内容概要	<p>戦時中、相模海軍工廠は、神奈川県高座郡寒川町に計14本の地下壕を掘った。壕の入口は昭和49年の特殊地下壕対策事業で塞がれている。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年7月24日に、国会議員が寒川町役場を訪れ、「工廠で製造されたイペリットなどの化学兵器が、地下壕に大量に運び込まれた情報がある」旨の言動があったと記録されている〔1〕〔2〕。</li> </ul> <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高座郡寒川町の特殊地下壕については、製造主体が相模海軍工廠であり、製造目的は製品格納庫であると記載されている（入り口14個・総延長2,938m、幅2m～2.5m・高さ2m～2.5m）〔3〕。</li> <li>・昭和49年に寒川町が調査し、壕の入口を閉塞しているが、当時の記録はない。当時寒川町役場職員だった人物によると、「蓋をする際に地元警察・消防に立ち会ってもらい一緒に壕の中に入り確認したが、中にはなにもなかった記憶がある」と記載されている〔2〕。</li> <li>・平成8年の国の調査時には壕の入口（14箇所）はすべて蓋がされていた〔2〕。</li> </ul>